

教育研究開発(FD)

－ 学生による授業に関するアンケート 結果と授業改善 －

2025



TOKYO SEITOKU
COLLEGE

東京成徳短期大学

2025年度 学生による授業に関するアンケート 結果と授業改善

目 次

はじめに	3
【1】「学生による授業評価アンケート -より良い授業を目指して-」趣旨と目的 ...	4
【2】実施の方法	4
資料 「授業アンケート用紙」	5
【3】集計結果と考察・授業改善コメントの方法	6
(1) 学科全体の集計結果<結果の表とグラフ>	7
【4】アンケート結果の分析と評価	10

はじめに

この「学生による授業評価アンケート」は、本学の教育がどのように学生に理解され、どのような教育効果を生んでいるかを把握し、より良い授業に向け教育開発研究を推進することを目的としている。また、アンケートは学修成果（修得・向上できたもの）を問うことによって学生には、授業がどのような目的・ねらいに基づいて行われていたか再確認を促し、より高い学修成果を生むことを期待するものとなっている。そして、教員はアンケート結果を考察し、授業改善を進めることが重要となる。

学生と教員の双方が授業評価アンケートのねらいを共有し、教員は、常にその目標達成のためにどのような教授方法が効果的であるかを探求する姿勢を持つこと、これがより質の高い授業の実現につながるものと考えており、さらなる授業改良の方向を探るきっかけになることを期待したい。

【1】「学生による授業評価アンケート -より良い授業を目指して-」趣旨と目的

「東京成徳短期大学 学生による授業評価実施規程」より

(趣旨)

第1条 この規程は、東京成徳短期大学教育開発研究専門委員会規程第2条の規程に基づき、本学の教育開発研究活動等の一環として行う学生による授業評価（以下授業評価という。）の実施と運営について必要な事項を定める。

(授業評価の目的)

第2条 本学が開設する授業科目について学生による評価を行い、その結果を教員が共有し授業改善に役立てるとともに、ファカルティ・ディベロップメント活動を促進し、本学の教育開発研究活動を推進し、教育の質の向上に資することを目的とする。

【2】実施の方法

WEB 回答方式により実施した。企画・IR 室が教務システム UNIPA を用いて各学生の履修科目に応じて、各学生がアンケートに回答する。また、多くの回答を求めるため教員は指定の期間内(概ね授業終了までの1ヶ月間)にそれぞれの授業内で学生に回答を求めた。

学生の回答はそのまま企画・IR 室を経由してデータ処理業者に届き、各科目単位で集計された。アンケートは、選択回答と記述部分とからなり、学修成果に対する質問を設け、学生自身がその授業を履修することによって考え方や知識・技能といった学修成果がどの程度得られたかを自己評価させている。自由記述部分は授業構成要素（授業方法、進度、教科書・教材、板書・資料提示、学生への対応）について、評価する点、改善を求める点それぞれを学生に自由に記述させ、単なる感想ではなく、より良い授業につながる学生の声を求めるものとした。

調査名	授業評価アンケート
調査対象者	原則として実習以外の全授業科目受講者
実施時期	前期：2025年7月7日（月）～7月29日（火） 後期：2025年12月22日（月）～1月20日（金）
調査ツール	UNIPA
調査方法	①学生：Webで回答（授業中、授業外） ②教員：授業時に回答への呼びかけ
結果の公表	HP（9月）

【アンケートの内容】

『 授業評価アンケート ― より良い授業を目指してー 』

問1：あなたはこの授業の目的を理解して受講したと思いますか。

(5 そう思う 4 ややそう思う 3 どちらとも言えない 2 あまりそう思わない 1 そう思わない)

問2：あなたはこの授業に対して真剣に取り組みましたか。(事前学習など自主的学習を含む)

(5 真剣だった 4 わりと真剣だった 3 どちらとも言えない 2 あまり真剣ではなかった 1 真剣ではなかった)

問3：あなたはこの授業の内容を理解できたと思いますか。

(5 理解できた 4 わりと理解できた 3 どちらとも言えない 2 あまり理解できなかった 1 理解できなかった)

問4：あなたがこの授業で特に向上・修得できたと思われるものを次の中から1～3つ選択してください。

- (ア) 教養・社会性
- (イ) 専門的知識・技能
- (ウ) 保育の実践力・即応力
- (エ) 課題探求力・研究意欲
- (オ) 他者と協働する力
- (カ) 責任感・倫理観

【記述回答】

問5：あなたが学修成果を得るにあたって、この授業の①方法・進度、②教科書・教材・資料、③教員の話し方・学生への対応などについて良かった点を書いてください。

【記述回答】

問6：あなたが学修成果を得るにあたって、この授業の①方法・進度、②教科書・教材・資料、③教員の話し方・学生への対応などについて改善してほしい点を書いてください。

問7：この授業を履修して、幼児教育科の専門分野での考え方や知識、技能が身につきましたか。

(5 身についた 4 わりと身についた 3 どちらとも言えない 2 あまり身につかなかった 1 身につかなかった)

【3】 集計結果と考察・授業改善コメントの方法

集計されたアンケート結果は、各教員に通知され、その結果から読み取った内容と授業改善についてのコメントを作成した。

また、自由記述に関しても、評価できる点、改善を求める点について、学生の学習成果との関連で読み解くことができ、どのような改善点を求めているか、そのことによって一つの授業改善の方向が見通せるものとする。

授業アンケートの結果のコメントと授業改善について認められるものがあれば、そこについて公表・情報共有し、お互いの授業改善に向けた一つの動きになることを期待したい。

集計されたアンケート結果は、各教員に通知され、その結果から読み取った内容と授業改善についてのコメントを作成した。アンケートの結果の集計に際しては、問 7 学修成果の回答と、問 1、2、3、4 の回答と集計を行い、授業要素「授業目的の理解」「学習の意欲・姿勢」「授業内容の理解」とをクロス集計表及びグラフによって表示し、学修成果をあげる授業要素について考察できる形としている。また、自由記述に関しても、評価できる点、改善を求める点について、学生の学修成果との関連で読み解くことができ、学修成果の評価が低い学生は、どのような改善点を求めているか、そのことによって一つの授業改善の方向が見通せるものとする。

また、これまでの授業改善の結果として効果が認められた点のコメントの記載も依頼している。授業アンケートの結果のコメントと授業改善について、経年実施の成果として認められるものがあれば、そこについて公表・情報共有し、お互いの授業改善に向けた一つの動きになることを期待したい。

(1) 学科全体の集計結果

＜結果の表とグラフ＞

授業に関するアンケート ― より良い授業を目指して ―

2025年度 前期

科目コード：

履修者数： 2507 名

授業科目名： 全体

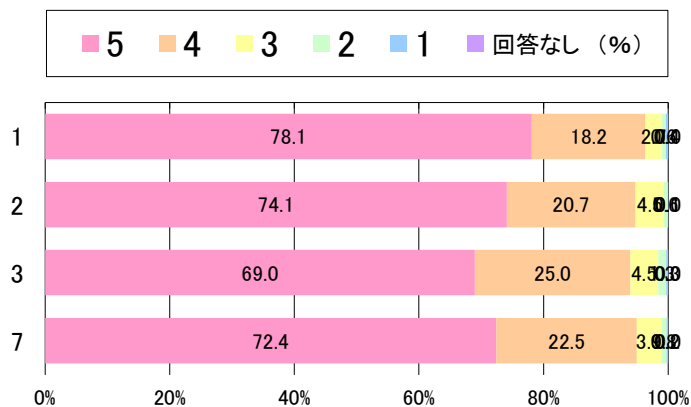
回答者数： 1651 名

担当教員名：

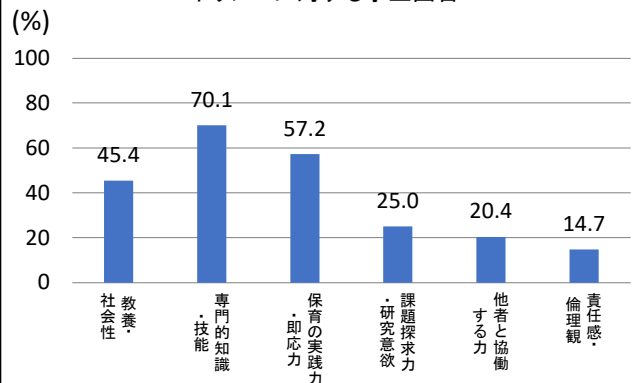
回答率： 65.9%

設問文	5	4	3	2	1	回答なし	当該科目の平均	全科目の平均
1 あなたはこの授業の目的を理解して受講したと思いますか。	78.1	18.2	2.7	0.6	0.4	0.0	4.73	4.73
2 あなたはこの授業に対して真剣に取り組みましたか。(事前学習など自主的学習を含む)	74.1	20.7	4.5	0.6	0.1	0.0	4.68	4.68
3 あなたはこの授業の内容を理解できたと思いますか。	69.0	25.0	4.5	1.3	0.3	0.0	4.61	4.61
4 あなたがこの授業で特に向上・修得できたと思われるものを次の中から1～3つ選択してください。	教養・社会性 45.4	専門的知識・技能 70.1	保育の実践力・即応力 57.2	課題探求力・研究意欲 25.0	他者と協働する力 20.4	責任感・倫理観 14.7		
5 あなたが学修成果を得るにあたって、この授業の①方法・進度、②教科書・教材・資料、③教員の話し方・学生への対応などについて良かった点を書いてください。	別記配布							
6 あなたが学修成果を得るにあたって、この授業の①方法・進度、②教科書・教材・資料、③教員の話し方・学生への対応などについて改善してほしい点を書いてください。	別記配布							
7 この授業を履修して、幼児教育科の専門分野での考え方や知識、技能が身につきましたか。	72.4	22.5	3.9	0.8	0.2	0.0	4.66	4.66

問1,2,3,7の回答率グラフ



問4 ―教育目標及びディプロマ・カリキュラムポリシーに対する学生回答―



※ 分子はそれぞれの回答数／分母は回答者数で算出しています。

【授業アンケート結果及び改善のコメント】

授業に関するアンケート ― より良い授業を目指して ―

2025年度 後期

科目コード： _____

履修者数： 2634 名

授業科目名： 全体

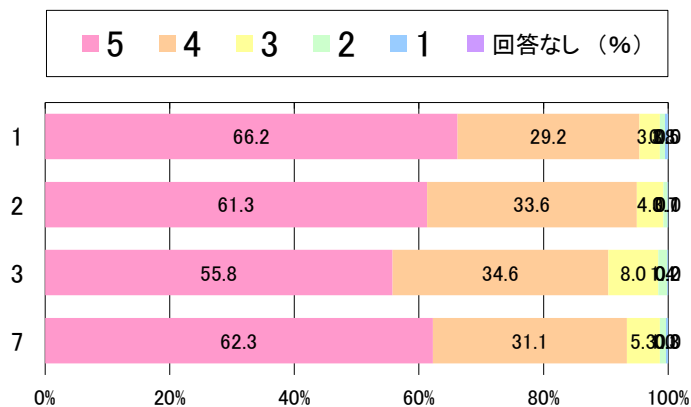
回答者数： 1190 名

担当教員名： _____

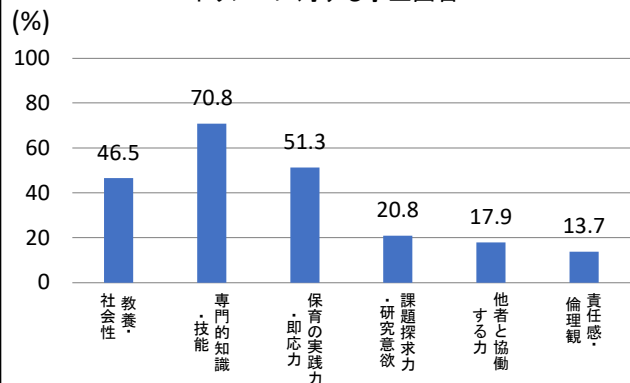
回答率： 45.2%

設問文	5	4	3	2	1	回答なし	当該科目 の平均	全科目 の平均
1 あなたはこの授業の目的を理解して受講したと思いますか。	66.2	29.2	3.3	0.8	0.5	0.0	4.60	4.60
2 あなたはこの授業に対して真剣に取り組みましたか。(事前学習など自主的学習を含む)	61.3	33.6	4.3	0.7	0.1	0.0	4.55	4.55
3 あなたはこの授業の内容を理解できたと思いますか。	55.8	34.6	8.0	1.4	0.2	0.0	4.44	4.44
4 あなたがこの授業で特に向上・修得できたと思われるものを次の中から1～3つ選択してください。	教養・ 社会性 46.5	専門的知識 ・技能 70.8	保育の実践 力・即応力 51.3	課題探求力 ・研究意欲 20.8	他者と協働 する力 17.9	責任感・ 倫理観 13.7		
5 あなたが学修成果を得るにあたって、この授業の①方法・進度、②教科書・教材・資料、③教員の話し方・学生への対応などについて良かった点を書いてください。	別記配布							
6 あなたが学修成果を得るにあたって、この授業の①方法・進度、②教科書・教材・資料、③教員の話し方・学生への対応などについて改善してほしい点を書いてください。	別記配布							
7 この授業を履修して、幼児教育科の専門分野での考え方や知識、技能が身につきましたか。	62.3	31.1	5.3	1.0	0.3	0.0	4.54	4.54

問1,2,3,7の回答率グラフ



問4 ―教育目標及びディプロマ・カリキュラムポリシーに対する学生回答―



※ 分子はそれぞれの回答数／分母は回答者数で算出しています。

【授業アンケート結果及び改善のコメント】

【4】 アンケート結果の分析と評価

本アンケートは、全科目、全教員での実施を基本としている。2025 年度のアンケート対象者（履修者数）は、合計 5,141 名（前期 2,507 名・後期 2,634 名）であった。うち回答者数は、2,841 名（前期 1,651 名・後期 1,190 名）で、回答率は、55.3%（前期 65.9%・後期 45.2%）（56.9%（2024 年度））であった。

本学における該当科目、該当教員のすべてにおいてアンケートを実施した。本年は WEB アンケートとして、学生による回答は、ネットを通じて学外の委託業者に送られ、集計が行われた後、企画・IR 室を経由して担当教員に科目単位で結果が通知された。

なお、同一科目を複数教員が担当した場合は、担当者単位で集計・通知を行い、コメントも依頼した。

① 科目開設時期による集計結果

2025 年度のアンケートの東京成徳短期大学幼児教育科全体の科目開設（アンケート実施）時期による結果（平均値）は、下表のとおりである。

なお、参考として（ ）内には 2024 年度の平均値を示す。

	質 問 内 容	前 期	後期(通年科目を含む)	年 間
問 1	授業目的の理解	4.73 (4.64)	4.60 (4.67)	4.66 (4.65)
問 2	授業姿勢	4.68 (4.61)	4.55 (4.65)	4.61 (4.63)
問 3	授業内容の理解	4.61 (4.50)	4.44 (4.53)	4.52 (4.51)
問 4	修得・向上できたもの (教育目標、カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)	次の表のとおり		
問 5 ・ 6	自由記述	各科目で集約		
問 7	学修成果	4.66 (4.59)	4.54 (4.58)	4.60 (4.58)

問 1 「授業目的の理解」では平均値は高く、授業目的の理解は達成できていると考えられる。問 2 「授業姿勢」についても、同様に平均値は高く、学生は授業に真剣に取り組んだと評価できる。問 3 「授業内容の理解」についても、前期は前年度を上回ったが、後期は前年度を下回ってしまっているが年間平均値は改善しており、授業内容の理解は概ねできていると考えられる。

問4「この授業で特に向上・修得できたと思われるもの(1～3つ選択)」の結果は以下のとおりであった。参考として()内には2024年度の値を示す

修得・向上できたもの	前期	後期(通年科目を含む)	年間
ア：教養・社会性	45.4% (48.8%)	46.5% (48.6%)	45.9% (48.7%)
イ：専門的知識・技能	70.1% (72.1%)	70.8% (75.3%)	70.4% (73.5%)
ウ：保育の実践力・即応力	57.2% (52.6%)	51.3% (54.8%)	54.2% (53.6%)
エ：課題探求力・研究意欲	25.0% (26.5%)	20.8% (21.8%)	22.9% (24.4%)
オ：他者と協働する力	20.4% (22.4%)	17.9% (17.9%)	19.1% (20.4%)
カ：責任感・倫理観	14.7% (17.6%)	13.7% (10.9%)	14.2% (14.6%)

ア～カの項目ごとにアンケート回答者数に対する項目選択者数を比率で示す。

ア～カは、ディプロマ・ポリシー及び幼児教育科学習成果から抽出された本学における学びの柱となる項目である。学生にはア～カの中から1～3項目の範囲で選択を求めた。

「イ：専門的知識・技能」については、前期70.1%、後期70.8%と他項目と比較し高い値を示した。多くの学生が履修科目全体を通して専門知識・技術の修得を実感していると考えられる。次いで「ウ：保育の実践力・即応力」が高かった。3番目は「ア：教養・社会性」であった。また、後期の結果では上記「イ：専門的知識・技能」、「ア：教養・社会性」の値はより高くなり、学修を通じて選択がより顕著になる傾向がみられる、その一方で「ウ：保育の実践力・即応力」「エ：課題探求力・研究意欲」、「オ：他者と協働する力」、「カ：責任感・倫理観」が下がるため年間を通じての学修機会を設けるなどの計画的な配慮が必要かと思われる。

問4では、回答者が選択できる項目数を1～3の範囲と限定している。選択肢の順番が後ろの項目ほど選択される数が少なくなる傾向も認められるため、上限を定めずに実施するなど回答方法の変更についても今後の検討課題と言える。

問5・6は、記述回答であった。

問5は、「学修成果を得るにあたって①方法・進度、②教科書・教材・資料、③教員の話し方・学生への対応などについて良かった点」、問6は、「学修成果を得るにあたって①方法・進度、②教科書・教材・資料、③教員の話し方・学生への対応などについて改善してほしい点」とした。各授業に対する具体的な学生の記述回答を報告し、今後の授業改善に活用できるよう各授業担当者へ報告した。各教員のアンケート結果のコメント、授業改善を参照していただきたい。

問7「この授業を履修して、幼児教育科の専門分野での考え方や知識、技能が身につきましたか」は、この授業アンケートで最も重視したい項目である。問7については、前期は4.66、後期は4.54であった。問7の学修成果の回答の特に高い「5」グループ、高い「4」グループ、学修成果が比較的低い「3・2・1、回答なし」のグループに分けて、問1、2、3の回答とクロス集計して示した。

問7の学修成果の高低による他の設問への回答傾向を把握したうえで授業改善に生かす意

図があるが、そもそも問7の回答が特に高い「5」に集中しているためクロス収集計の結果考察は限定的であるが、高い「4」グループにおいてはクロス集計の回答5～1において4の値の高く、学修成果にたいして他の授業目的の理解、姿勢、内容の理解が今一つ及ばなかった傾向を表しているといえる。ただ、この結果を各科目レベルで授業改善に生かす分析方法としての有効性については検討の必要がある。

② 履修科目の区分による集計結果

教育課程表における履修科目の区分ごと（必修科目、選択必修科目、選択科目）の集計結果は以下のとおりである。

必修科目の履修者数は、558名、回答者は327名で、回答率は58.6%であった。

選択必修科目の履修者は、502名、回答者は294名で、回答率は58.6%であった。

選択科目の履修者数は、4,081名、回答者は2,220名で、回答率は54.4%であった。

アンケート結果は、下表のとおりであった。

なお、（ ）は2024年度の平均値を示す。

	質問内容	必修科目	卒業選択必修科目	選択科目
問1	授業目的の理解	4.72 (4.65)	4.65 (4.68)	4.70 (4.65)
問2	授業姿勢	4.69 (4.60)	4.62 (4.68)	4.62 (4.63)
問3	授業内容の理解	4.59 (4.47)	4.54 (4.56)	4.55 (4.51)
問4	修得・向上できたもの(教育目標、カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)	次表のとおり		
問5・6	自由記述	各科目で集約		
問7	学修成果	4.59 (4.61)	4.57 (4.57)	4.66 (4.58)

問1から問7の全般にわたり、高い平均値を示した。

幼児教育科の学生のほとんどが保育者を目指しており、どの授業も大事な科目として取り組んでいることと考えられる。

問4「この授業で特に向上・修得できたと思われるもの(1～3つ選択)」の結果は、以下のとおりであった。参考として()内には2024年度の値を示す

修得・向上できたもの	必修科目	選択必修科目	選択科目
ア：教養・社会性	51.4% (45.8%)	42.2% (46.8%)	45.5% (49.3%)
イ：専門的知識・技能	62.4% (65.1%)	66.7% (71.0%)	72.1% (75.0%)
ウ：保育の実践力・即応力	45.6% (41.6%)	37.8% (32.1%)	58.3% (57.6%)
エ：課題探求力・研究意欲	37.9% (40.8%)	24.5% (24.2%)	20.9% (22.0%)
オ：他者と協働する力	23.5% (32.1%)	24.8% (25.4%)	18.0% (18.1%)
カ：責任感・倫理観	17.1% (15.9%)	11.6% (15.9%)	14.2% (14.3%)

イの「専門的知識・技能」は、必修科目 62.4%、選択必修科目 66.7%、選択科目 72.1%であり、いずれの科目区分においても最も多くの回答者に修得・向上できたものとして選択されている。

選択科目において、イの「専門的知識・技能」に次いで多くの回答者に選択された項目は、ウの「保育の実践力・即応力」であった。必修科目と選択必修科目において、イの「専門的知識・技能」に次いで多くの回答者に選択された項目は、アの「教養・社会性」であった。

つまり、学生は選択科目の履修を通して専門的な知識や技能、保育の実践力や即応力を主に修得し、必修科目及び選択必修科目の履修を通して専門的知識や技能、教養と社会性を主に修得していると実感していることが伺える。

エの「課題探求力・研究意欲」については、特に必修科目において高い数値が認められた。このことは、卒業必修科目とされる6科目の中に「課題研究A」「課題研究B」という研究実施とその成果発表・報告を重視する2つの科目が含まれ、それが卒業必修科目全体の3分の1にあたることによると考えられる。

以上の結果から、カリキュラム・ポリシーとして掲げている「専門的知識と研究意欲」、「保育の実践力・即応力」、「豊かな人間性と社会性を育てるための教養科目の充実」などの方針に基づいたカリキュラム編成における履修を通して、履修者自身それらの力が向上・修得できた自覚が持てていることが確認でき、カリキュラム編成の妥当性が認められる。

③ カリキュラムマップにおける科目群による集計

2024 年度入学生から履修系統図及びカリキュラムマップに基づいた履修指導を行い、また、
 教学システムによる学修成果の可視化を行っている。

カリキュラムマップのベースとなる科目群ごとの問 1， 2， 3， 7 の平均値を集計した。

(平均得点)

科目群	関連 DP	問 1 授業目的の理解	問 2 授業姿勢	問 3 授業内容の理解	問 7 学修成果
初年次教育 課題解決・研究力	①④⑤	4.73	4.69	4.61	4.59
基礎教養	①	4.68	4.61	4.55	4.61
教育・保育の基礎・本質・目的	②	4.54	4.50	4.36	4.44
教育・保育の対象理解	②	4.58	4.59	4.40	4.52
教育・保育の内容・方法	②③	4.73	4.77	4.64	4.79
教育・保育実習・実践	③④⑤	4.81	4.59	4.60	4.77

科目群ごとの問 4「この授業で特に向上・修得できたと思われるもの(1～3つ選択)」の結果は以下のとおりであった。

科目群	関連 DP	ア教養・社会性	イ専門的知識・技能	ウ保育の実践力・即応力	エ課題探求力・研究意欲	オ他者と協働する力	カ責任感・倫理観
初年次教育 課題解決・研究力	①④⑤	45.1%	55.1%	39.7%	50.0%	30.1%	17.3%
基礎教養	①	42.4%	66.7%	39.2%	23.9%	26.1%	11.8%
教育・保育の基礎・本質・目的	②	66.0%	73.5%	37.2%	20.4%	9.6%	20.0%
教育・保育の対象理解	②	48.7%	74.5%	52.0%	16.6%	11.2%	20.8%
教育・保育の内容・方法	②③	39.7%	72.3%	63.4%	21.2%	19.5%	12.1%
教育・保育実習・実践	③④⑤	51.9%	68.7%	72.0%	24.5%	24.0%	12.8%

ディプロマ・ポリシー

- ① 社会生活や職業生活において必要な教養と社会性、基礎的技能を備えている。
- ② 保育者として必要な専門的知識を修得している。
- ③ 教育・保育の場で必要となる専門的技能を修得し、実践力・即応力を発揮できる。
- ④ 課題を探究し解決する力を備えている。
- ⑤ 職業人として求められる責任感と倫理観及び他者と協働する力を修得している。

科目群 1「初年次教育 課題解決・研究力」と科目群 6「教育・保育実習・実践」では、問 1 の「授業目的の理解」がどちらも 4.73 と 4.81 という科目群での最大値を示している。

科目群 1 は、卒業必修として開設している「幼児教育基礎演習」、「課題研究 A」、「課題研究 B」である。科目群 1 については、問 2「授業姿勢」、問 3「授業内容の理解」も高く、履修者は目的をよく理解し、真剣に取り組み、内容をよく理解できている様子が伺える。また、問 4「特に向上・修得できたもの」で最も高い項目はエ「課題探求力・研究意欲」、次いでイ「専門的知識・技能」であり、次に高い項目はア「教養・社会性」である。

科目群 6 は各実習指導の科目及び「教職実践演習（幼稚園・保育所）」で構成されている。問 1「授業目的の理解」は 4.81 と高く、この値は他科目群と比較して最も高いものであった。しかし、問 2「授業姿勢」は 4.59 と昨年度に比べ低下しており、実習指導関連や教職実践演習の科目は、取り組まれる実習についての授業姿勢の改善が望まれる。また、問 4「特に向上・修得できたもの」では、最も高い項目はウ「保育の実践力・即応力」次いで、イ「専門的知識・技能」、その次がア「教養・社会性」である。この科目群の主な関連 DP である DP③、④、⑤のうち、履修生が向上・修得したのものとして自覚の高かった項目は DP③であることが認められ、保育者として必要な専門的知識を深め自信となった上で保育の実践力・即応力が向上したと思われる。

科目群 2「基礎教養」は、問 4「特に向上・修得できたもの」として最も高い項目はイ「専門的知識・技能」の 66.7%であり、次いで高い項目はア「教養・社会性」であった。この科目群の主な関連 DP は①の「教養と社会性」であるが、履修者が向上・修得したのものとして自覚が高かったのは専門的知識・技能であったことが伺える。この科目群を構成している「情報機器の操作」、「外国語コミュニケーション」、「健康・身体運動科学」等は、カリキュラム全体の中では教養科目としての位置づけであり、履修者も社会生活・職業生活において汎用的に活用可能な知識や技能を得ていると考えられるが、各科目の授業内容はそれぞれが専門的なものであるためこのような結果になったと考えられる。

科目群 3「教育・保育の基礎・本質・目的」及び科目群 4「教育・保育の対象理解」で問 4「特に向上・修得できたもの」として最も高かったのはイ「専門的知識・技能」であった。次いでア「教養・社会性」、その次がウ「保育の実践力・即応力」であった。この科目群の主な関連 DP は DP②であるが、履修生の多くが向上・修得したのものとして挙げたものと一致している。

科目群 5「教育・保育の内容・方法」では、問 4「特に向上・修得できたもの」として最も高かったイ「専門的知識・技能」であり、次いでウ「保育の実践力・即応力」であった。この科目群の主な関連 DP は②、③であるが、履修生が向上・修得したのものとして自覚の高かった

項目とも一致している。

問4「特に向上・修得できたもの」で、力の「責任感・倫理観」が特に高かった科目群は、科目群3「教育・保育の基礎・本質・目的」と科目群4「教育・保育の対象理解」であった。また、オ「他者と協働する力」がもっとも向上・修得できた科目群は、科目群1の「初年次教育 課題解決・研究力」であった。